

白星会2016年度総会・講演会報告

2016年5月21日(土)東工大ホームカミングデイ(HCD)において機械系同窓会白星会の総会と講演会が大岡山キャンパス内にて開催されました。白星会は、会員が約1万2千人の大きな同窓会であり、会員の親睦及び東工大機械系学生の支援を中心に活動を展開しています。総会には114人(委任状含む)の会員が参加して、2015年度小川博会長から2015年度の活動報告・収支決算報告を、小俣一夫監査役から会計監査報告があり、出席者の承認を頂きました。引き続き、東工大の教育改革について山浦弘副会長より説明があり、それに伴う白星会の会則の変更点を説明し、出席者の挙手により全員の賛成を確認し、会則の変更は承認された。

次に、2016年度の新会長として藤原彰彦氏を推挙し新体制の提案を行い、満場の拍手で承認されました。その後、藤原新会長により2016年度の活動計画と予算を説明頂きました。総会終了後、藤原新会長による「日本のものづくりの将来」と題する講演が行われました。講演の内容は、1990年代以降の日本の製造業は頭打ち状態であり、欧米諸国と中韓との板挟み状態にあるなか、これを打開するための施策「GNT」、「ロングテール事業」、「カスタマイゼーション」が提案された。また、日本のイノベーションの状況についても解説がありました。講演会終了後は、それぞれHCDを楽しみ全体交流会に集結して同窓生の親睦を大いに深めることが出来ました。



(文責：大和田政孝)